

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391100098		
法人名	社会福祉法人 順風会		
事業所名	グループホーム西城園		
所在地	熊本県宇土市戸口町906		
自己評価作成日	令和5年 3 月 2 日	評価結果市町村報告日	令和5年 4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は、海や山など自然豊かな環境で閑静な住宅街に立地している。新型コロナウイルス感染症予防のため地域の方との交流やボランティアの訪問が制限されているが、施設内の行事(夏祭り・敬老会・クリスマス会等)を感染対策を行い開催。また、季節感を味わっていただく為に近隣への花見(桜)やあじさい見学、初詣など外出を行いご利用者様方に喜んでいただいている。また、日常生活においても入居者様の能力に応じた体操やレクリエーション活動を行い、機能低下の予防に努めている。職員教育として、施設外研修以外に毎月職員会議の勉強会にて感染症対策、接遇教育、認知症への理解、虐待防止等の研修を実施し、認知症対応型の施設で働く職員としてまた人間性を高める取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの地域に建つ事業所は今年度新しい施設長を迎え、新たな体制のもと、入居者本位の地域に根付いた事業所運営がなされています。今年度はコロナ禍ではあるものの職員研修や会議も変わることなく実施されました。職員面談やアンケートを重ねることで今後の方向性を示し、来年度開設10周年を迎える法人運営に向け、経営理念を反映した「職員心がけ」など法人が求める人物像を掲げ、理念に沿ったケアへの取り組みの様子がうかがえました。近年、入居者の高齢化や身体状況による幅広いケアが必要となっているようですが、入居者の思いに寄り添い、家族と協力のもと共に支援する様子がありました。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理事長より月に1回の昼礼時に理念に関する講話があり周知している。それに基づきグループホームでも運営方針を作成し、ケアの実践につなげている	毎月1回の昼礼では理事長より職員へ向けて理念についての話も行われている。「敬愛の精神・奉仕の心」を職員共通理念とし、地域に密着した事業所であることを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、どんどやなどの地域行事への参加やフラダンスや演奏会などのボランティア交流・施設見学など地域の方の訪問ができるようにしている。今年度は近隣の金毘羅恵比寿大祭の参列は行った。＊新型コロナウイルス感染防止の為職員のボランティアの踊りを披露してもらった。	コロナ禍により、従来のような行事等での入居者と地域の交流は難しい状況が続いているが、密にならないことを検討し、事業所周辺の散歩や挨拶等日常的な交流は継続している。地域の総会には地域の住民として職員も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西城園便りやパンフレットなどで情報の発信をするとともに見学や相談にも対応している。地域の介護サービスを必要とする方や介護支援事業所等からの認知症の方の相談にも応じ、医療機関や地域包括支援センターなどにつないでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月でご家族代表・区長・老人会長・民生委員・地域包括支援センター・行政の方等に参加していただきサービスの内容や事故報告、行事活動等の報告を行い多くのご意見をいただき、サービス提供に反映している。本年度が2回実施、4回は資料を郵送し意見を頂いた。	年6回の運営推進会議時期には都度対面による開催が可能であるか検討し、できるだけ参加頂けるよう取組んだ。今年度は資料郵送も多かったが、地域包括支援センターとの連携は密に行っており、事業所の取組みも報告している。地域とは総会への参加等、地域の一員としての交流を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター等と連携を密にし空き状況や待機者数の報告を行い、利用者の受け入れなどの相談と情報を共有している。また、生活保護者等の困難事例の受け入れも行っている。	地域包括支援センターには日頃より事業所の空き情報等情報交換を行っており、地域の困り事例の相談もある。行政とは入居者の各種報告事項や手続き等もあり協力関係を築いている。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っている事例はない。研修(年2回)や勉強会にて身体拘束の指針や拘束に当たる事例を紹介し理解を深めている。管理者が月1回の身体拘束廃止委員会の会議内容を職員会議に伝達共有している。施設ではスピーチロック廃止に努力している。	法人で組織し毎月開催する身体拘束廃止・事故防止委員会に職員が参加し状況確認と対策を話し合っている。委員会の内容は職員会議で共有している。法人全体で年2回身体拘束廃止研修会を行っているが、今年度はコロナ禍であることから事業所内で資料をもとに研修を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞やテレビ等で虐待防止に関する事例が出た場合は職員にも通達する。また、毎月の昼礼等で理事長からの虐待防止に関する注意喚起の訓示もあり、研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度利用の方が1名ご利用されている。この事例をもとに制度の活用について学んでいる。また、地域包括支援センターより、困難事例等の問い合わせにも対応するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時また介護報酬改正の際も契約書の改定や重要説明同意書を用いて十分な説明を行っている。その際の疑問点や不安な点があれば十分説明し理解していたできるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来園時や担当者会議でご家族と話し合う機会を持ち、ご家族からの要望やご意見を聞いている。又、ご家族に入居者の情報の報告や相談を行いご意向を聞いている。苦情が出た場合は苦情解決委員会を開催し適切な対応を検討している。	コロナ禍ではあるが、窓越し等面会方法を工夫することにより、できるだけ家族の来所を受入れ、職員からも状況報告し意見を得る機会としている。体調変化が穏やかな入居者も現在多いが、介護計画を年2回見直しを行う際にはモニタリングを兼ね、家族も参加し担当者会議を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で各委員会の報告や入居者様の事例検討やケアについて情報共有を図っている。又、新年度の運営方針に関するワークショップに参加、サービス向上・働きやすい職場・健全経営に関する意見を出してもらっている。	日頃より職員は施設長・管理者等へ意見や提案を述べるができる体制である。年1回は理事長面談も行っている。今年度は複数回の面談やアンケートにより職員一人ひとりの意見を表す場を設け、職員の意見をまとめて「私たちの心がけ5ヶ条」を作成した。毎月の法人会議には事業所からも参加し、業務改善等も行われている。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は職員一人一人にヒヤリングを行い、まとめた意見を反映した職場環境の改善に繋げる方策を検討している。また、年1回の職員アンケートを実施して意見を知る機会を設けている。職員の事情に応じた勤務調整などを行い、離職につながらない働きやすい職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や法人の教育計画に沿った研修はもとより、キャリアアップや資格取得の為に外部研修を受講している。本年度はキャリアパスの管理職員研修やオンラインによる実務者研修など受講してもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に毎回出席し、感染対策や職員の働きやすい職場作りなど情報交換を行い、気軽に意見交換できるネットワークができています。新型コロナ感染予防の為、施設訪問はできなかったがBCPに関するオンライン研修があった。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の段階から関係事業所やご本人やご家族の情報から生活状況を把握し受け入れ態勢の整備を行っている。又、入居時はご本人やご家族の希望を言葉や表情から読み取れるようなかかわりを持ち、初期段階から職員間の情報共有を密にケアに当たり、ご家族へも報告相談しながらご本人に寄り添った対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用初期の段階からご家族の意見を聞き取り、相談しやすい関係づくりに努めている。入居後に分かったこと、どのような対応して来られたのかなど生活歴を確認し、面会や電話で報告・相談を行い、不安や心配の解消に努めている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのサービスの仕組みの説明を行ったうえで他の通所や短期入所・入居系・訪問系のサービスの説明を行っている。また、法人内にあるサービスとの連携についても提案を行い、将来的に必要なサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の視点から利用者様ができることを無理がない程度でやっていただき、できないところを支援している。自宅での日常生活に近い雰囲気を出すことに努め、洗濯物たたみや食材料の皮むきや食器洗い、お盆拭き、新聞の片づけなどその方の能力にあった家事を職員とともにやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関の受診など可能な限り、ご家族に同行して頂くようにしている。面会時にご家族へ日頃の生活についても報告し、共に本人を支えていく関係を築いている。また、帰宅欲求がある場合は、ご家族とご自宅へ外出したり、電話での対話していただくなど気持ちが落ち着き安心できるよう工夫をしている。また、ご家族とのドライブや外食など行う機会を少しずつ提供している。施設内の行事・レクリエーション活動を写真入りですべてのご家族へ郵送にて報告し、生活ぶりをお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症により面会制限している期間が長く続いたため、感染が落ち着いている時期に対面での面会や窓越しの面会でも電話を使用し会話できるようにし、関係が途切れないよう支援に努めている。また、法要など大切な方のお参りなどは特例で感染対策して外出してもらっている。	コロナ禍のため馴染みの方や場所との関係継続支援が難しい状況が続いたが、家族との関係が希薄にならないよう取組んだ。家族との外出等は感染状況や入居者の状況も検討し、お墓参りや自宅での畑作業、家族との通院を利用した馴染みの場所へのドライブ等、入居者それぞれの関わりに合わせた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が交流スペースの椅子やソファに座り、それぞれ楽しく会話が出来る環境を作っている。また、新しいご利用者は、職員が声掛けを行い、どのご利用者と関わりあえるか、席の入れ替えなどを行い関係づくりの支援に努めている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合などは定期的に病院訪問や電話にて体調面などの情報を把握、面会できる場合は面会し、ご家族にも近況をお聞きしたりして関係性の継続に努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご利用者の意向を十分に聞いたうえで、ご本人の思いを家族と共有している。帰宅欲求や不穏傾向の方には時間をとり傾聴の姿勢で対応している。又、日々の生活のなかで無理強いしない対応に心がけており、例えば入浴日を決めずに本人の希望や声掛けを行い可能な限り実施している。	事業所では「強制・抑制しない。入居者本人の支援を行う。」ことを基本としたケアを行っており、年2回のモニタリングの際にも入居者本人と家族に思いや希望・意向を確認している。耳が遠いや言葉が出辛い等、意思疎通が難しい入居者へは職員の寄り添いや家族へのお尋ねで意向の確認を行っている。職員へ思いを訴える入居者にはじっくりと寄り添い、向き合う姿がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、入居前の介護サービス事業から情報収集するとともに、本人と普段の会話の中から昔の思い出、職歴、家族のことなど生活歴を把握し、日常の支援や会話につなげている。また、本人や家族から得た情報を職員間で共有しケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活歴を踏まえた上で、現在の心身状態に合わせた支援を行っている。一日の過ごし方や行動を十分に観察し、新聞を読む時間などできる限り希望に沿った過ごし方を尊重し、職員同士が情報を共有しケアを行っている。また、居室に引きこもりがちな利用者については、声掛けを行いレクリエーションや行事の参加を促している。さらに、ADL維持のため、毎日、機能訓練を行っている。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議や日々のミーティング・申し送りで現状を把握・共有し、意見を出す事でチームとして統一したケアができるようにしている。また、モニタリングやアセスメント後に担当者会議を開催し、ご利用者・ご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。	入居者の日々の様子は申し送り等で共有している。毎月の職員会議では入居者一人ひとりのケアについて話合っている。計画作成担当者を中心に職員の意見をもとに行うモニタリングには施設長からもコメントを追加している。年2回担当者会議を行い、入居者・家族の意見も確認している。入居者の体調等変化時には現状に即した介護計画への見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に、プランに沿ってご利用者からの訴えや状態、職員が気づいた点など記録し、職員間で情報を共有するようにしている。また、モニタリング・アセスメントを行い介護計画作成及びケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれてくるニーズに対応できるように普段から様々な視点で観察し、ご家族に報告・相談・協力しながら支援を行っている。残存能力に着目し職員の「気づき」を大切にケアを行っている。具体例では、他施設にいる妻の面会やご自宅訪問し安心していただくなど支援した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や区長からの情報より、地域資源の把握をし活用に努力している。ご利用者様が地域住民の一人として活躍できるように、地域行事への参加やボランティアを受け入れている。新型コロナウイルス感染防止のため本年度はボランティアの受け入れを制限したが、近所の恵比寿大祭式典への参加や網田地区主催の趣味の作品展に利用者の作品を出展した。		

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は、ご利用者やご家族の希望を大切にし利用前の医療機関を継続して受診している。また、協力医による往診・受診や訪問歯科も行っている。症状に応じ、専門医への受診の支援も行っている。視力低下を気にしている入居者様が眼科受診を希望され、長年進められていた白内障の手術を希望され、治療をされる予定であり、通院支援している。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在協力医による往診による受診の入居者も多い。専門医等への通院は職員も対応するが、時には家族との通院を利用し、入居者と家族とで過ごす時間を作る例もある。入居者の事業所での生活の質の向上のため、「改善できるところ（治療等）は支援する」の姿勢で取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気付いた異常と思われる変化や怪我について看護師へ報告・相談し適正な指示を受け迅速な受診や処置を行っている。また、ご利用者の健康管理・服薬管理を行っている。医療行為が継続的に必要な時は自助で行う場合もあるが、協力医の訪問看護と協力し治療を行っていく。入院にならないよう早めの受診と適切な処置に心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ施設での生活状況やADLなど細かな情報提供を行い、安心して治療できるように努めている。入院中は、治療計画、治療状況の確認を行い、できるだけ早期退院ができるよう担当医と話し合い、ADLの低下や認知症状の進行の予防をお願いしている。退院してもできるだけ、入院前と同様の生活ができるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で出来る対応と看取り期の説明を行っている。時期が来た段階又は早めの段階で、ご家族に終末期のあり方のご意向を聞き、ご家族・管理者・看護師・協力医・訪問看護などとカンファレンスを行い、協働してより良い看取りや終末期のケアが出来るように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた方針と対応について入居者と家族へ説明している。体調や身体状況により事業所での生活が難しくなってきた際には、入居者本人のことを第一に考え、家族や関係機関と話し合い特養への住み替え例もあり、看取りステージの前段階から検討を重ねている。今年度は看取り支援のため体制の再整備を行い取組んだ。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、消防署に協力いただき応急手当やAEDの使用方法や初期対応などの施設内研修を行っている。また、急変時の対応・連絡・救急搬送などマニュアルを整備し実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災による避難訓練を入居者で行っている。台風の被害が懸念される場合は、法人本部へ早めの避難を数回実施している。その際、ご家族や区長、地域の方へ避難した旨の連絡や備蓄食、ご利用者の私物、必要物品の運搬についても計画的に行える体制を築いている。	年2回火災避難訓練を入居者参加にて行っている。事業所は海に隣接しているため、台風被害が予想される際に法人事業所へ避難を行った。台風後は振り返りを行い、体験した内容をもとに台風等避難マニュアルの見直しを行った。法人では隔月防火・災害対策委員会を開催している。運営推進会議では、今後、地域の協力を得ての体制作りに取り組む計画を伝えた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、個々の対応を行っている。また、状況に合わせ、目線を合わせた声かけ(スピーチロックにならない声かけ)を行い安心して過ごしていただけたケアを心がけている。接遇委員会や職員会議の研修を通して、倫理観を高める活動を行っている。申し送り時に排泄状況などについては、居室番号や記号を使用しプライバシーを損ねない対応を行っている。	入居者が「笑顔で暮らせるよう」、「一人ひとりの今」と「思いを大切にし、心に寄り添うケア」を行うことは事業所の運営方針で表している。毎月の理事長講話の際にもモラルに反すことのないよう等の話題も出ている。職員会議でも接遇に関する議題を持った。今年度は接遇チェックシートを用いて毎月職員自らが振り返る機会を持つ取り組みを始めた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、ご利用者の気持ち、希望を確認し選択できる環境を提供している。移動販売のパン屋で好きなパンを購入する機会を提供したり、自己決定ができないご利用者に対しては表情や感情、ボディールanguageで確認。また、利用者がご家族と会話の時間を持てるよう面会や外出など意思表示できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決まっているものの、一人ひとりのペースに合わせ、本人の意志に沿うように起床時間やレクリエーション、行事への参加、入浴など、できるだけ希望にそった余暇の過ごし方になるよう支援している。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類や通院時・外出時の服装について、ご利用者と一緒に選んでいただくようにしている。女性のご利用者で、化粧をされる方もいらっしゃる。また、介助を要する方に衣類と一緒に選び、身だしなみに配慮し、その人らしい身だしなみの支援をしている。起床時の洗面(眼脂)や髭剃り、頭髮(寝ぐせ・散髪)、服の汚れなどにも十分に配慮して支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	暦や行事に合わせ栄養管理された料理を提供している。また、恵方巻の巻きずしを巻いてもらったり、食材の皮むき、食器拭き、お盆拭きなどの家事を手伝っていただいている。また、おやつや誕生日ケーキは、全て手作りで提供している。地域の農園から頂いたプランターイチゴを収穫してケーキに飾り、おいしいと喜んでいただいた。	法人本部の栄養士による献立表をもとに、事業所職員手作りの食事を提供している。前もって届く週間献立は職員も確認し、リクエストや変更依頼により入居者に合わせて臨機応変に対応している。おやつは職員の手作りも多い。時にはたこ焼きや巻き寿司等、入居者と一緒に調理する機会もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された季節を感じる料理を一人ひとりにあった食事形態(一口、キザミ、ミキサーなど・ご飯・お粥など)で栄養状態、嚥下・咀嚼機能にあわせ提供している。水分補給については、お茶・麦茶・コーヒー・牛乳・ジュースなど選択できる様にしている。また、食事介助などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は介助して口腔内の清潔を保っている。また、必要な方には、定期的(月数回)に訪問歯科の衛生士による口腔内の観察・ケア・義歯調整や治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には、排泄訴えのある方は、自らトイレに行っていたが、排泄訴え尿意がない方は、定期的トイレ誘導だけではなく、排泄パターンを把握し言動や行動から排泄のタイミングを察知し、支援を行っている。また、安易にオムツやリハビリパンツを使用せずに布パンツやパットを使用しただけトイレで排泄できるように支援している。	昼間はできるだけトイレでの排泄に向け、入居者それぞれに合わせた声かけや誘導、仕草等により支援を行っている。夜間はポータブルトイレ等の利用もある。オムツやパット等を安易に利用せず、できるだけ職員対応によりトイレでの排泄を支援している。	

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の便秘症の方も多いため、一人ひとり、看護師が協力医に相談して対応している。水分量の確保が難しいご利用者には、飲み物の種類(緑茶・麦茶・コーヒー・牛乳・ジュース)を変えて提供している。また、水分補給量は、1,000ml～1,200ml、回数を分けて摂取していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずにできるだけ希望に応じて、午前・午後など利用できる(週2～3回入浴)ようにしている。入浴は1対1で行い、湯船の中でゆっくり話ができる雰囲気を作り、歌や昔の話、時には悩みを打ち明けられる場所になっている。菖蒲湯や柚子湯など季節のお風呂も楽しんでいただいている。	入居者の身体状況も幅広く、二人介助が必要な場合もあるが、週2～3回を基本に午前・午後、希望があればいつでも入浴することができる。入浴拒否が見られる際には理由も記録するようにしている。湯舟を利用できる入居者も次第に減ってきているが、できるだけ湯舟に浸かりゆっくり過ごして頂けるような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の健康状態や生活習慣、個々の状態に合わせて休息を取っていただいている。また、交流スペースのソファでも休んでいただいている。睡眠薬は極力使用しない方向で対応し、白湯を飲んでもらったりして入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や処方箋を管理し、いつでも情報が得られるようにしている。処方の変更時は管理者・看護師が職員に伝達し、情報共有し症状の変化を確認・報告している。服薬の際、二重のチェックを行い、飲み込まれるまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の役割として主婦の経験から野菜の皮むきや食器拭き、お盆拭き、洗濯たたみを行ってもらったり、得意な調理を一緒に行っている。毎朝、新聞読みを日課にしておられる方、水戸黄門のテレビを見られる方等の大切な時間を過ごしていただけるよう支援している。管理職経験の利用者には仕事の話をよくしていただき、頑張ってもらったことに敬意をもって接している。		

グループホーム西城園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や季節の花見、ドライブなど外出を行っている。また、ご家族の協力のもとお寺参りなど家族と連携を取り支援している。さらに、祭りや地域の行事、近隣への散歩なども職員と一緒にしている。※新型コロナウイルス感染防止のため祭りや行事への参加は少なかった。	コロナ禍ではあるものの、近隣の散歩は日常的に行っている。近くの神社への参拝やドライブ等、密にならない状況での外出は継続している。時には家族行事への参加や、家族との通院を機会としたドライブ等も支援した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の下、施設でお金を預かっている。必要に応じて、職員と一緒に外出して買い物を行ったり、ご利用者が欲しいものを職員が代理で買い物を行っている。※新型コロナウイルス感染防止のため買い物外出は少なかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は設置していないがご利用者の希望時は施設の電話を使用いただいている。自分でかける事のできないご利用者には、職員が代わりにかけたり、伝言したり支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はご利用者が食事や休息を取ったり、長時間過ごし交友の場所である為、室温やにおいなどに注意を図り、環境整備に配慮して居心地よく過ごしていただけるように努めている。また、季節や暦に応じて、ご利用者と一緒に飾り造りや飾りつけを行ったり、季節の花を飾り、話題にしたりして会話が盛り上がる。	明るく穏やかな雰囲気を持つ共用空間では、新聞を読んだりテレビを見る等、入居者それぞれが思い思いに過ごす姿がある。壁には入居者と職員で作った季節の壁飾りや入居者の習字作品等が飾られている。食材の皮むきや洗濯物を畳む入居者の姿もある。廊下やトイレの手すりも入居者の利用に合わせ配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でテーブル席やソファに腰掛けていただき楽しい会話ができるように、座席の配置を工夫している。ご利用者同士で座ることにより安心されたり、自由に場所を選べるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具や身の回りのものを持ってきていただく事で、入居時の不安を少しでも軽減するようにご家族と協力している。ご家族との写真や誕生会の写真・色紙、レクリエーションの作品を飾り、ひとり一人に温かみのある居室で過ごしていただけるよう工夫している。	押入れと作り付けテーブルが備えられた居室にはテレビ等の持ち込みもあり、入居者それぞれの空間となっている。入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いしている。	入居時、使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いされているようですが、現状は新しい用品を準備される方も多ようです。可能である場合には、家族との関わりも感じることもできる居室作りのため、家族への声掛けの継続に期待します。

グループホーム西城園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーの建築であり、廊下の手すりの位置も工夫して設計されている。また、麻痺などがあるご利用者でもトイレの左右の手すりを使って排泄が出来るように整備している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム西城園
作成日 令和 5 年 4 月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	54	ご家族との関りや思い出を感じる居室づくり	入居時の生活環境はなじみの物品を持参し、自宅生活に近い環境を提供する	・入居準備は現在使用されている日用品や衣服、寝具類を準備してもらう ・思い出の品や趣味の道具など利用する	2か月
2	13 19	職員と入居者の生活ぶを通してご家族との関係づくり	職員の生き生きとした働きぶりや顔が見える関係づくり	・入居者個々の受け持ち職員から家族への近況報告や連絡を行う ・2か月に1回の活動報告に職員の近況を入れる	6 か月
3	16	入居者の生活ぶりがわかりやすい情報発信の工夫	すべての入居者の近況報告が家族へ伝わる情報の発信のシステム化	・体調の変化や受診時の相談報告の漏れがない。 ・変化のない入居者のご家族への近況報告やご意見の聴取や広報を行う	6 か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。